

# C O N T E N T S

<b>【巻頭特集】 駐日ギリシャ大使館の活動</b>	2
<b>総会写真①</b>	8
<b>目次</b>	9
■第 45 回理事会、第 44 回総会、懇親会報告	10
■オリュンポス十二神：ゼウス編 会員 遠藤 昂志	14
■海原の光、檸檬に宿り 会員 綾能 綸子	16
■2017 年3月のギリシャ —大妻女子大学比較文化学部研修引率記— 会員 渡邊 顕彦	18
■『折り紙を オリンピアで』 会員 藤井 苑子	21
■ソポクレースが描いたオイディプース —その死と再生— 会員 原 峻二	25
■曖昧さの微笑み —或るヤニス・リッツォス論のために— 会員 茂木 政敏	26
■新個人会員紹介	33
<b>連載</b>	
■シュリーマンと 19 世紀ギリシア新古典主義 (66) 女子美術大学 教授 勝又 俊雄	34
■事務局通信 ～イベント報告～	36
■焼津とギリシャ 在ギリシャ日本国大使 西林 万寿夫	38
■編集後記	41
<b>総会写真②</b>	42
<b>写真</b>	
●海原の光、檸檬に宿り	43
●ヒポクラテスの木	44

表紙協力 会員 千葉政助 様

「微風に舞い」(そよかぜにまい) <ペルセポネー>

主神ゼウスと豊穡の女神デメテルとの娘ペルセポネーは、一年の三分の一を冥界王ハデスとの后として、死者の国で過ごさねばならない。

時期が来ると、地上の母のもとに戻れる喜びと、デメテルも娘が帰ってくる嬉しさで、春になり大地は蘇り、花々はペルセポネーを迎える。

この母娘の再会が、この世に四季をもたらしたのです。